

第2回 釧路市子ども読書活動推進計画策定委員会 議事要旨

■開催日時及び場所

令和2年9月30日（水） 15時00分～16時30分
釧路市交流プラザさいわい 3階 小ホール

■主な議事

- (1) 変更案について
- (2) 意見交換

■結果

議事（1）について、委員の承認を得られた。

■発言要旨

議事（1）について

委員：延長となる2年間で具体的に取り組む施策についての話等は進むのか。2年後には目標指標のパーセンテージが変わっているかもしれない。

事務局：基本的には現在の計画の内容を2年間継続することとなる。2年後に再度アンケート調査を行なうことで最終的な成果を確認し、次の目標指標を立てていく方向で考えている。

議事（2）について

委員：学習障がい等を持つ子ども達への対応は、個々の能力によって違ってくるため、あの手この手で支援をしていくしかないと思っている。

委員：授業の一環で、教科書や本をどうしているのか調べるために、釧路養護学校に協力をお願いしたことがある。そういったところと上手く繋がれると、ノウハウの共有を含めた連携ができるのではないかと。

委員：子ども達にとって分かりやすく使いやすい図書室や、本を読む子以外も集まれるような雰囲気のある図書室であれば、子ども達が持つ色々な弱さも補っていくことができるのではないかと。

委員：生徒たちが装飾をしたり、自分たちが読みたい本を図書室に入れたりすることが、他の生徒が図書室に足を運ぶきっかけになっている。

委員：幼稚園にも配慮が必要な子はいるが、その子にとってその時間が嫌な時間になってしまうので、読み聞かせに集中していなくても注意はしないようにしている。

委員：地元出身の作家を取り上げて紹介することで、図書室に足を運ぶ生徒は増えた。特別支援学級の生徒たちへの授業において、昔話や童話等の利用価値は非常に高いと最近の授業で実感している。

委員：電子的な資料でもいいからまずは見せる。そこから活字に繋げていくということがこれからは必要だと思う。

委員：各所との連携の可能性を探りながら活動の内容を見直すということが、この計画の目標指標の数値を高くしていくことにも繋がるのではないだろうか。

委員：この計画を推進していく上で、ボランティアの力や、学習機会を提供する場として、色々な弱さを持つ子どもたちに対してどのように支援をしていくかという部分は大切なものであると考える。

委員：目標指標の数値については、活動が下火になっているから悪化しているという捉え方ではなく、今般のコロナウイルス感染症の影響等、社会情勢が反映されているという捉え方をしていくべきではないだろうか。

担当課・係 生涯学習課生涯学習担当